

# 宗谷の「先生」をつなぐ月刊誌 Soya

# 9

2020 September vol.5

宗谷管内の魅力いっぱいの情報誌  
毎月無料で机上にお届け!



Photo:利尻の夏の風物詩・昆布干し

## 戦後75年の節目だからこそ 子どもたちに平和の意味を伝えよう

## 活動の意味や意義を確かめ合う 学校づくりを進めよう

授業づくりの玉手箱④「中学校・道徳の授業」

私のおすすめ「下沼湧水」

私の職場を紹介します!

### 私の職場を 紹介します!

利尻富士町立鷺泊中学校/村上 舞

全校生徒50名の鷺泊中学校は、利尻島の北東に位置します。雄大な利尻富士の麓、このたび転入してきた私と加藤先生で、新たに分会をスタートすることになりました。

私と加藤先生を含め、実は今年の転入者のほとんどが中学校未経験。そんな私たちを支えてくれるのが、頼りになるベテランの先生方です。離島交流のおかげもあり、宗谷以外の様々な管内で勤務経験のある先生が揃っていることが、鷺泊中の大きな特色と言えます。出身や所属、考え方は様々ですが、気軽に声を掛け合うことのできる雰囲気もあり、転入組として非常に助かりました。

鷺泊中のもうひとつの特色と言えば、校務分掌のひとつかと思ふほど、先生方が昆布干しのお手伝いをしていること! 朝早く起きるのはつらいですが、懸命に並べた昆布を眺めるのは仕度です。豊かな自然・おいしい海産物・可愛い子どもたちに

囲まれて、皆さんも利尻島で先生をやってみませんか?お待ちしてま〜す。  
v(^\_ ^)



少し曇り、朝日に照らされた島も、霞れまずの遠慮も大きいです。

### 「コロナ騒動から、半年を振り返る。」

「新しい生活様式が始まって約三か月が過ぎました。ニュースでは変わらず日々の感染者数が報道され続けており、今回のコロナ騒動はまだまだ終わりが見えません。宗谷のそれぞれ学校の様子も、今後の見通しをなかなかはっきりと持つことができません。日々を過ごしています。密の回避、ス

クスの着用と熱中症対策、消毒作業、何より子どもたちの心のケアと、やることは山積みです。同じように、子どもたちもいろいろと制限された生活を送っています。不安を抱えていたり、コロナ禍の生活につかれ始めている子もいます。しかしながら、そんな中でも少しずつ自分たちでできることを模索している子どもたちもいます。

### 奮闘する子どもたち

授業時数の確保のため、削られた行事や活動も少なくありません。「コロナだから仕方がない」と思う人も多くいるでしょう。一方で日時を変えしながら、実施を決めた学校もあります。中には、子どもたち自身が、コロナ感染予防の観点もふまえた種目を考え、運動会を実施すると

ころもあります。自分たちでやるべきことを整理し、実施に向けて検討を重ねているそうです。夏休み中に子どもたちがオンライン会議を行ったという話もあります。今ある状況でどのように工夫したらよいかを考え行動する中で、コロナ禍でも成長していく姿が見られています。

### これまでやってきた活動の意義とは

「時間がないから」と簡単に切り捨てることのできる活動なら、最初から取り組む意味はありません。今、これまで我々が行ってきた教育活動の意義が問われています。授業時数の確保が優先され、それ以外の活動の削減が余儀なくされているところもあります。「コロナだから仕方がない」ではなく、「これまで子どもたちにつけてきた力を、「コロナだけと同じように追及していく。」そのための工夫を出し合う議論を職場の仲間たちと重ね行くことが大切です。

### 編集後記

香港の民主活動家の周庭せん、黎智英さんが香港国家安全法違反容疑で香港警察に逮捕されました。この報道を聞いて頭にすぐ浮かんだのが日本で6年前に施行された特定秘密保護法でした。「民主主義が壊れるかもしれない」として日本弁護士連合会も警笛を鳴らしていました。日本国内では逮捕・立件された人はいませんが、これは日本だからでしょうか。似た法律がある以上、日本でも同様のことは起こりえるかもしれない…情勢を学承大切さを改めて感じる出来事でした。

宗谷の「先生」をつなぐ  
月刊誌「soya」2020.9

発行日 2020.9.1  
発行 宗谷教職員組合  
発行人 吉川 正史  
〒097-0004 稚内市南2丁目4-21 宗谷教育会館  
☎0162-22-2480 メール info@soya-teachers.org

### 私のおすすめ

私のおすすめは、網走町下沼にある「下沼湧水」です。JR下沼駅の目の前に湧き出る天然水です。宗谷管内では利尻島の湧き水が有名ですが、下沼湧水もおいしいです。家にウォーターサーバーがあります…という方もいらっしゃるでしょう。冷たい水、温かいお湯が簡単に出来るのはとても便利です。しかし、やはり自分で汲みに行くという手間が、水を一層おいしくするように感じます。私の家は水道はあるものの、地下水脈からポンプでくみ上げた地下水を使用しています。水道水を数回機会が少なかったため、小さい時から水道水は得意ではありませんでした。

宗谷に赴任してからは、遠方に近くの湧き水を汲みに行くという生活リズムが続きました。稚内から豊通に通っていたときには、水を入れるタンクを車に積み、退勤後の夜に下沼まで水を汲みに行ってから稚内に帰るという生活でした。

同僚の先生から、「そこまでなくちゃダメなの?水道水でイイじゃん」と言われたこともあります。一度おいしい味を占めたら、辞められなくなるものです。週末は数台の車が並ぶこともあります。ドライブがてら空のペットボトルを持って汲みにいっていませんか??冬でも湧き出ていますよ。



【宗谷教職員組合本報/道藤 玄】



# 戦後75年の節目のだからこそ… 子どもたちにも 平和の意味を伝えよう

戦後75年の記念の日。世界的な新型コロナウイルス感染症の流行のため、原水禁世大会はオンライン開催となりました。被爆地の式典も人数制限を設け、参加できた人は例年の1割未満だったそうです。戦争を知らない世代の教師として、私たちはどのように考え、子どもたちと接していけばよいのでしょうか。

## 「教え子」を 再び戦場に 送るな！」

この言葉は、過去の戦争で教え子が戦争に行くことを後押ししてしまっただけでなく、三浦綾子の「銃口」には、治安維持法違反の疑いをかけられ投獄されてしまっただけでなく、1人の熱心な青年教師の姿が描かれます。この真面目な青年は「奉安殿」を掃除する掃を股に挟んで怒られる友だちを見たり、友だちの家に御真影」が飾っているところを見て、そんなに大事なのだろうか、と疑問を持ちながら大人になります。そして、子どもたちがのびのびと成長することを願い、民主的な勉強会に参加します。このころ、自分の生活を見つめ、ありのままに表現する生活綴方（さいかつづか）とは、社会の在り方に疑

間を感じるような教育であると治安維持法の取り締まりの対象となっていたのです（北海道生活綴方事件）。そのため、主人公の青年も逮捕されてしまいました。この本を読むと、教師は子どもたちが生活する環境の大きな要因であり、考え方に大きく影響を及ぼすことがわかります。



2010年の出張。道外！アプナフマで元教員のガクさんに話してもらった。



道東の海岸で、土砂流入工事現場を見ながら

## 稚内市は平和の日

9月1日は、稚内市では平和の日です。稚内市から北に100キロメートルのモネロン島上空で、大韓航空機が墜落される事件があったからです。毎年、9月1日に平和祈念式典が開かれたり、市内各校で平和の折り鶴まつりに合わせて鶴を折ったり、平和学習に取り組んでいます。子どもたちが戦争について学習する時、「戦争は絶対だめ」「こんなことがあった」ということを知らなかった」という感想を持ちます。

それは、人が人の命を奪うということに対する本能的な拒否感だけではない、自分たちが絶対にたくないという思いも含まれているはず。日常生活では、戦争や原爆、平和について考えることはあまりないかもしませんが、しかし、子どもたちは、唯一の被爆国に生きる人間として、知らないまま大人になってほしくないという思いもあります。

市内のある小学校では、長崎原爆資料館とオンラインでつなげて平和

## 授業づくりの 玉手箱 中学校・道徳の授業づくり

現在、「考え議論する道徳」の授業づくりを各校模索していることと思います。教科として扱うことや評価のあり方など様々な意見があり、まさに私たち自身が「考え議論する」必要があるでしょう。一方大切なことは道徳の時間で「子どもと共に価値ある学びをつくること」だと考えています。

年間指導計画の中では、年末に「よりよい学校生活、集団生活の充実」の項目を設定し、教科書と合わせて、「自分と仲間との頑張りを見つけ、称える」学習活動を行っています。活動の概略は、教科書の編纂や事例について考え、意見交流をした上で、「自分たちは、どうだったか」を振り返るようにしています。年末ということもあり、「所見」という形態でそれぞれ頑張りを書いてもらいます。その中である男子はある女子に向けて次のように書いてくれました。

ケガをして大変なところもあったと思うけど、そういうところを乗り越えて自分のことをして、周りをサポートしていた。テストも毎回よく勉強して、いつも努力していたのがよかった。どんなときでも自分のことじゃなくて、周りを一番に考えて、きついがよくできていたし、みんなを笑顔にしていたのが良かった。

これを書いてくれた子は、前年「書くことない」と言い、他の子に「僕しいところがいい」とだけ、書いていました。他の子達は、称えられた女子に拍手を送るだけではなく、書いた男子の変化や成長にも拍手を送りました。

書いてもらった、女子は「ケガをしたこと」を今年の後悔としてあげていました。しかし、「ケガをしたからこそ身につけられたことがあったことを彼から教えてもらった」と感想に書きました。見方を変えたら謙遜も良癖になること、互いの言葉から学んだのでしよう。

「考え議論する道徳」のゴールに、それぞれが人生の主体として生きていくことがあります。そのために題材を自分たちのリアルな日常とつなげて、自分たち自身を問い直し、つくりあげていくことが「価値ある学び」だと考えています。

## 「先生」として 伝えたい

私たちは学校の先生です。家族の次に子どもたちと接する時間の長い大人です。そして、「学校」は勉強を教える場所、子どもたちが学ぶ場所です。私たち学校の先生は、子どもたちの生き方に大きく影響を与えてしまふ可能性を忘れず、子どもたちに接していきたいものです。

## 全教共済 第5回「全教自動車保険」

宗谷管内の教職員のほとんどが加入しているのは自動車保険ではないでしょうか。広い北海道、生活の足として自家用車は使われています。野生動物と出会うことも多い地域ですので、お世話になったことのある方も少なくないでしょう。万が一のときに修理費を保障してもらい、身近な保険です。

全教共済自動車保険は、「教職員の身分を守る唯一の保険」です。壊れてしまった物に対する、いわゆる民事上の責任に対してお金が出るという点では、どこの保険会社も変わりません。しかし、事故で人を死傷させてしまった場合の刑事上の責任については対応する保険は全教自動車保険だけです。多忙を極める教職員の仕事、いくらか注意していても、万が一はあり得ます。起訴され、執行猶予がついても禁固刑・懲役刑が確定すると教員免許は失効し、失職してしまいます。全教自動車保険は本人の希望に基づき、代理店・保険会社・弁護士がチームを作り、身分を守ることを第一に考えて動きます。

万が一のために私たちは保険に入ります。その万が一は、お金だけ考えれば良いものではありません。今後の人生・家族を考えるとできてこそ、本当の安心につながります。9月10日から12月10日まで全教自動車保険見直しキャンペーンがあります。職場で3名以上見直しを取りと職場全員にゼリーがプレゼントされます。入るから入らないかは別です。ぜひこの機会に見直しを取りとから始めましょう！

## 宗谷の空 コロナ禍でも オンラインで学びの秋！ 11/7合同教研開催!!



新学期がスタートして2週間。暑い毎日が続いています。遠足や学習会など様々な取り組みがはじまっています。



子どもたちは、「コロナ禍の中、命を大切に生きています。時には、私たちが思いもしないような本音を出されていきます。」



秋は教育研究の季節。子どもたちの日々の営みや、実践レポートにまとめてみませんか？

Zoonでの研修会などがせかんに行われるようになります。

これまでなら、「札幌は遠くて行けない」なんていうことが多くありましたが、Zoonなら時間さえ都合がつけば気軽に参加することができます。

毎年秋に行われている「合同教育研究全道集会」。今年はZoonによるオンライン開催です。全体講演は、昨年「道民宗教宗谷集」で権内に来てくださった鈴木大裕さん（道高研究家・高知県土佐市・町議会議員）。

対談形式でこれからの教育について考えます。ここだけの話、対談は宗谷教組本部・内務が担当します！明日からの教育に希望が持てるお話を聞きます。ぜひ今から予定をあげておいてください。



全体講演をおこなう鈴木大裕さん

2020年11月7日午後  
主な内容 全体講演・緊急討論  
※詳しくは、後日発行されるチラシをご覧ください。  
※オンライン開催のため、事前申込が必要です。